

えていたつもりだったが、忘れてしまっていたのである。

英会話というと、学校側も学生側も、英米人が指導することを当然視している。しかし、この姿勢に問題があるのだ。英米人からのみの授業を受けて進歩できる人は、少なくとも英文法をよく知っているだけでなく、英文法を使いこなせる人なのである。これ以下のレベルの人でも、How old are you? とか Where do you live? というような簡単な英語を話して楽しめるだろうが、こういう質問は1ヵ月もしないうちに種がついてしまうということが分かった、貴重な体験であった。わずか1ヵ月で受講生が激減した事態に直面して、私は自分自身の英語基礎固めの過程を振り返ってみたのである。

④中途退学者0になった教授法の開発に成功

英米人からのレッスンを受ける前に、基礎力を充実させなければならないことを知った私は、書店へ行きテキストを探してみたが見つからなかった。この種の本は現在もないのである。このテキスト不在に、現在でもなお多くの英会話学生が、英会話を修得できなくて、投げ出してしまう理由がある。

文型練習と題した本が何冊か出版されているが、これらは文法の一部を扱っているか、look like, look forward to のような、表現練習のための本である。私が考えていた、文法の全項目を使えるようにすることを意図した本は、不思議なことに、その時も今もないのである。そこで、自分で作ることに決めた。しかし、テキストを作るということは、大変な仕事であった。入門～中級まで、難易度を考えて70冊の本を完成させた。ページの左側に日本語訳を書かせ、その日本語訳を見たとき、その日本語訳に相当する英語が出てくるまで、各文を音読させ、その音読した例文を使えるように、英米人講師による授業を並行して受講できるようなカリキュラムを組んでみたのである。受講生自身、進歩を肌で感じられたのだろう。それは何よりも、中途退

学者がゼロになったことによく反映され、私が唱えている文法の例文音読重視の正しさが、証明されたことになった。非常に嬉しくもあり、自信も得た貴重な経験であった。

以後、使っては改訂を繰り返し、少しでも無駄のない効果的な英会話指導法を追求して、この効果的な教授法により、短時間で英語を話せる多数の英会話生を輩出してきている。この効果的な教授法を「ボストンアカデミー方式」と呼んで、今日に至っている。

⑤ボストンアカデミー方式は進歩が速い

使っているうちに、ひとつ大変嬉しいことに気がついた。それは私が学生時代に、いろいろな本で例文を片っぱしから音読することにより、英文法の全項目を使えるようにするために費やした時間よりも、私が書いた本で勉強した受講生の方が、ずっと短期間で無駄な骨折りをせずに文法の全項目を英米人との会話で、自由自在に駆使できるようになったということである。

具体例を挙げれば、ボストンアカデミー方式でボストンの指示通り勉強すれば、中学1年レベルの英語が全くできない人でもわずか1年で(週6日間のレッスンを受講することが前提)英字新聞を読み、それを使って英語で討論することが可能になる人が多数出ているのである。

中学、高校、大学で10年間も英語を学びながら英語を「もの」にできない人が多いのに、ボストンアカデミー方式でやればわずか1年で英字新聞の社説の読解講座を受講できるのである。このことは教授法、教材、学習方法により進歩が大きく変わることを証明している好例なのである。そこでこの効果的なボストンアカデミー方式を、ボストンへ通ってくることができない全国津々浦々の英会話修得希望者に広めることが私の使命のように思われ、『英語口』初級編①②を2005年9月に出版した。